

平成29年度・尼崎市立武庫庄小学校 重点取組目標		教職員の自己評価・主な意見	◎効果があった実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと (いずれかの記号を打ってから文章表記してください)	H30. 3 4段階評価 (1)は28年度末	学校関係者評価をふまえた、次年度にむけての改善策
実践目標	主な手立て(前期)				
ア 自立して自ら学び続ける力を育てる ～未来を切り拓くために～ 授業改善やカリキュラムの工夫、改善に取り組む、主体的・対話的で深い学びをめざすことにより、将来にわたって自主的・意欲的に学び続ける態度を育成する。	①学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返る活動を教科学習に取り入れ、主体的・自立的・対話的に学ぶ態度を育む。 ②目標・内容・つきたい力を系統立てた各教科学習のカリキュラムを整備し、探究への意欲や課題解決能力を育む。 ③夏休み学習会や夏休み講座等で、基礎学習の充実を努めるとともに学習意欲や興味、関心を高めるような長期休業中の学習活動を充実させる。	◎単元の計画表を掲示したことで学習のゴールは何なのかわかり、意欲的に学習に取り組めた。 ◎どの時間もふり返りの時間をとるように心がけた。 ◎校内研究を中心に目標、内容、つきたい力が示され、課題解決能力を育まれつつある。 ◎学習が始まる前に授業の流れを明記しておく。子ども達の見通しが立ち、スムーズにできる。 ◎対話的な学習を取り入れることに取り組んだ。 ◎放課後を中心に基礎学習の底上げの時間を多くとることができた。会議などが無い日が週に二、三日あると子どもも好きな曜日に居残り学習に参加することができ、習慣づけやすかった。 ■夏休みの短縮により、7月の中の水泳指導や夏休み学習会や講座などこのままでよいのか検討が必要になると思う。8月最終週の学習は普段通りに始めるのか、暑さ対策なども考えなくてはならない。 ★道徳や英語なども見直しをもってカリキュラムを整備しなければいけないと思う。 ■新指導要領を念頭に、主体的、自立的、対話的に学ぶ態度を育む指導研究がさらに必要と感じる。 ■六年間でつきたい力をしっかり把握し、つまづいている児童に発達段階を遡って支援できればよい。 ◎夏休み学習会で、その学期のつまずきを改めて指導できる。教師の負担が大きくなりすぎない程度に、現状の規模のまま続ける事はよいと思う。また、児童の生活リズムを規則正しく維持する為にもよい取組だと感じる。 ◎対話活動を授業に取り入れることで、多くの児童が「学習に参加している」という満足感を得ている。◎ 特別支援学級では、児童一人一人の実態把握に努め、個々の認知方法に合わせた教材を作って学習を進めた。得意な面はさらに伸ばして自信をつけさせ、苦手な面は基礎となる力をつける取組をした。	◎効果があつた実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと (いずれかの記号を打ってから文章表記してください)	H30. 3 4段階評価 (1)は28年度末	学校関係者評価をふまえた、次年度にむけての改善策
全ての領域で「こぼれ」を高める活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	①ペア・グループ・全体と、目的に応じて学習形態を工夫した話し合い活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ②子ども達自身が自ら話し合いたい、考えたい、調べたい、伝えたい、学びたいと思えるような課題や場の設定を工夫する。	◎様々な教科でグループ活動を取り入れている。子どもたちがお互いに助け合い、認め合うことにもつながってよかった。 ◎計算タイムを記録したり、字を丁寧に書く、意見を発表するなどの小さな事柄でも、自分のがんばりを視覚化したりして励みとなるようにし、学習意欲が持続できるようにした。 ◎簡単な算数の問題でもそれを説明させたり、分からなかった子もその説明を聞いて同じように説明させたりし、全体で考え、学べるようになった。 ■意見を言いにくい子でもノートに書いていけば意見や考えをもっていることにはなるが、発言する、伝えるという力をつけるためにもペアやグループなどの少人数の学習ももっと取り入れたいと思う。 ◎朝の会、帰りの会のスピーチの取り組みを続けたことで、まとまった内容を用意し、話せる児童が増えた。 ■児童の発言を中心に進めたいが、一方で発表しない、分からないと思っている児童の集中を保つのが難しい。 ◎全体発表の前にペアトークやグループトークを取り入れることで発表しやすい空気が作れた。 ■調べ学習には意欲的だが、人数分の資料(本)はないので、不便を感じる時もあった。その際は必要に応じてコピーするなどで対処した。 ◎様々な子が活動する場の工夫を行い、クラスの仲間意識を高めている。	◎効果があつた実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと (いずれかの記号を打ってから文章表記してください)	3.1 (2.9)	このような実践を今後も継続、推進していきます。
学力実態を分析し、学力向上に組織的に取り組む。特に、家庭との連携を強化し、自立的な学びの習慣化を図る。	①学力実態の分析や、学力向上プラン実施について、学力向上委員会を中心として組織的に取り組む。 ②家庭との連携を強め、自立的な学びの習慣化に徹底的に取り組む。 ③ノートのまとめ方、予習・復習の仕方など学習方法の指導にも力を入れ、自立的な学びを奨励する。	■自立的な学びの習慣化が不十分であった。 ■ 自主学習に積極的に取り組めなかった。 ◎学習の手引き(冊子)のおかげで生活点検も年間を通して見直ししたり、保護者とのコミュニケーションの場になった。 ◎学習の手引きは有効であった。 ■学習の手引きを活用してくれている家庭がある一方、紛失してしまった児童が数名いたので、配布する時に保護者にも注目してほしいところや使い方を懇談でもう少し詳しく話した方がいいと思った。 ■宿題は学年でだいたい質量ともに合わせているが、「自主的に」という点で低学年より自主学習を進めることも全学年を通して考えてもよいのではないだろうか。本校ならできると思う。 ■生活点検が形骸化しないよう気をつける必要がある。4年生末になると習いごと等本格的に始める児童があり、九時半就寝が難しい。(練習が八時半～九時頃まである) ◎生活点検を活用している家庭では、学習や生活の仕方の見直しを図ることができているが ■ 一方活用できていない家庭ではなかなか習慣化までできていないように思う。 ◎学力向上担当の先生が学力調査の結果等をまとめて下さり、本校児童に今後つきたい力を考えることができた。 ■なかなか協力を得られない家庭もあり、その環境にある子どもこそ、学力や生活面での指導、支援が必要であったが不十分な点があった。今後の課題と考える。 ◎特別支援学級では、漢字や計算など基礎的な力をつけるとともに、家庭での学習が生活習慣として定着するような宿題を出し、一部の児童は自分で計画を立てて学習時間を生活の中に組み込み、実行できるようになった。また、連絡帳で日々の学校生活の様子を伝えて、保護者から家庭での変化の様子などをやり取りすることを通して家庭との連携に努めた。	◎効果があつた実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと (いずれかの記号を打ってから文章表記してください)	2.9 (2.7)	・「学習の手引き」は毎年改善していきます。 ・「学習の手引き」をなくした児童への対応を考えていきます。 ・学力向上委員会と研究推進委員会の連携を強化します。
イ 豊かな心を育てる ～未来をよりよく生きるために～ 夢や自尊感情を持たせ、自己実現の意識を育むとともに、家庭や地域と連携しながら規範意識や自己指導能力を育成する。	①夢や目標を常に意識させる仕掛けを工夫する。 ②体験的な活動を充実させ、チャレンジして乗り越えたときの達成感や充実感を味わわせる。(キャリア教育の充実に向けて) ③自分や他人のいいところ見つけ、学年を越えた活動、地域との協働など、他者との関わりの機会を増やしていく。 ④内省による自己指導能力を育てることをねらって、生活点検を活用していく。 ⑤子ども懇談会により、より深い児童理解に努め、学習指導、生徒指導の充実をめざす。	◎生活点検が一冊にまとまったことで前月の反省を生かすことができた。 ◎生活点検を冊子化したことで成果が見えやすくなった。児童の取り組みも意欲的だった。◎生活点検における家庭の協力は少しずつ高まったように感じた。 ◎むくしんよ祭り、にこにこ学級やペア給食など、異学年交流はとて充実している。 ◎子ども懇談会を設けたことで、友だち関係についての児童の悩みを聞き出すことができ、保護者とも連携して解決につながるがあった。 ◎子ども懇談会によって児童理解につながっていると思います。★ただ、時期や場所の確保等、今後考えて必要があると思います。 ◎子ども懇談会は時間こそとるもの子ども一人一人の生の声がじつりと聞け、そこから新たな面を見つけることもできたのでよかった。 ◎■子ども懇談会によって教師が見えていなかった子ども達の実態を把握する手がかりとなる。一方で時間的制約で余裕の無い学級が殆ど。どのような形でどの時間帯に開催すべきか等は、良案があれば検討すべき。 ◎子ども懇談会で今分数が苦手など、子どもから悩みを言ってもらうことで、より補習や指導を変えたりなどすることができ、子どもをよく理解できた。 ■必要以上に保護することなく、失敗経験も子どもたちにとって必要だと思う。 ◎二分の成人式に向けて自分について見つめさせたことことは有意義であった。自分について知り、自己肯定感が上がった。◎四年生では二分の成人式があるので、夢や目標を意識させる仕掛けを工夫できた。 ◎4年生ではキャリア教育とあわせて、来自分が見たい職業について調べ学習を行った。図書の本、図鑑を利用して職業を詳しく調べることで、子ども達も新しい知識、発見が見受けられた。 ◎キャリア教育ファイルに実践を残していくようになり、行事を通して得た充実感などを言葉で表すことができた。◎ 今年キャリア教育が計画的に進められているのでいいと思う。	◎効果があつた実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと (いずれかの記号を打ってから文章表記してください)	3.0 (2.9)	・生活点検と連絡帳でのお知らせが保護者との連携に効果的に活用できるよう工夫していきます。 ・子ども懇談会の時間のとり方や懇談場所について検討します。 ・キャリア教育については、小中連携した取り組みを進めていきます。
他者や自然とふれあう機会を増やし、命を尊ぶ心やよりよい人間関係を築く力を育成する。	①ビオトープなどの学習環境を活用し、授業で意図的に使ったり、積極的に関わらせたりする。管理が大切なので、仕組みづくりを工夫する。 ②あいさつの在り方について共通理解を図り、一貫した指導を行う。	■ビオトープは子どもたちの憩いの場にはなっているが、意図して授業に活かすことは難しい。 ■ビオトープが活用し切れていない。月1回の委員会活動等で維持しきれない。 ■管理が大変だと思うのでより多くの人が関わられるような体制にしていけたらいいのではないかと思う。花壇や畑なども。 ■ビオトープ自体の活用が少なくなってきた。授業以外で子どもたちが興味を示せるようビオトープについての意識づけや教師自身の意識を向けていきたい。 ◎理科の季節毎の観察の際、ビオトープ周りの植物や生き物、水の様子の変化等がよくわかり、子ども達もそれに反応し楽しんでた。 ◎自分からあいさつができる子が少し増えたように思う。 ◎職員のみあいさつ週間を増やしたり、東中と連携したあいさつ運動をしたりできたが ■ 教師側からあいさつをしないと黙っている子やお礼がきちんと言えない子が多いと感じる。 ◎校内であいさつが返ってくることは多くなった。地域防災訓練時では、活発に地域の方にあいさつをしていた。事前の指導の賜物だと思う。機会を捉え、教師側が継続して指導していかなくてはと感じた。 ■高学年になると自発的なあいさつがなかなかできていないように感じ、家庭における親に対する言葉遣いにも気になる点が多岐みられた。 ■変わらず校内であいさつをする声は少ない。こちらから声をかけても素通りする児童が多く残念である。クラスの中では誰とでもおはようタッチ10秒などを朝の会に行ったりして、クラスの子同士、担任には元気よくできるようにしてきたが、他の先生方にもあいさつをしているとは思えない。 ■あいさつも気になるが靴箱の上履きも週末によく残されていたり、片方とび出していたりと気になっている。毎日の声かけや手本を示すなどの取り組みはしているが、全学年取り組んでもよいと思う。一つずつだとは思いますが、心の乱れの一歩にならぬようにしたい。 ◎あいさつ当番を続け、自分から元気よくあいさつできる子が増えたと思います。	◎効果があつた実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと (いずれかの記号を打ってから文章表記してください)	2.6 (2.6)	・ビオトープの管理については、地域の人の協力も獲られるようです。 ・あいさつについては、ひき続いて重点的に指導に取り組めます。

ウ 健やかな体を育てる	～未来をたくましく生き抜くために～			
家庭や地域と積極的に連携して食育をより充実させ、健康な体づくりにつながる望ましい生活習慣を育成する。	<p>①系統性を意識した学年毎の食育カリキュラムを作成する。</p> <p>②給食の献立に関する情報を毎日児童に提供し、食や健康に関する意識の向上を図る。</p> <p>③出前授業等、食に関する情報を親子で同時に共有できるような機会を設定する。</p>	<p>◎ 給食放送を必ず静かに聞くようになり、他の放送もきちんと聞くよう身についた。たまに違う先生が放送するとさらに集中してよく聞いています。</p> <p>◎ 毎日の放送で食材や食文化について知れてとてもよいと思います。◎ 給食放送、ランチルームの活用、食育授業等、食育に関する教育は充実している。</p> <p>◎ 給食を通して食事のマナーや食べることの大切さを伝えることは年間を通し伝え続けることはできた。(ほとんど残食なしで良かった) ■しかし、食に対する感謝や意識が高まっているとは言いかねず、家庭との連携の下指導する必要がとても大切なことと考える。</p> <p>◎ いつも考えられた給食放送で子ども達は毎日楽しみにしている。ランチルームでの給食時には詳しい栄養の勉強ができてよかった。</p> <p>◎ 給食委員会の子どもも放送などで主体的に取り組む機会もありよかった。</p> <p>◎ 各教科からめて食育の授業をしている。</p> <p>◎ 出前授業は子どもだけでなく保護者の反応もいい。</p> <p>◎ 西村さんのご協力がありがたいです。</p>	3.2 (3.3)	・給食放送、ランチルームでの食育指導、地域の方(西村さん)のご協力による体験学習等さらに充実させます。
自らの身体や健康について関心を持たせたり、計画的な体育・スポーツ活動を通じて運動する楽しさや喜びを味わせたりすることにより、体力の向上や健康の増進を図る。	<p>①体育のカリキュラムの系統性を再検討する。</p> <p>②休み時間に、外遊びを奨励するはたらきかけを学校全体として取り組む。</p>	<p>■ 鉄棒は指導する時期を考えるべき。寒い時期は避けたい。</p> <p>■ 体育のカリキュラムは行事との関係で体育館が使えない日が続くなど、また再検討が必要だと思う。持久走と鉄棒の重なりもやりにくかった。</p> <p>★ 前年度にその担当者で次年度の体育のカリキュラム案を検討しておく。今年度の反省が生かされるはず。</p> <p>■ 高学年の真冬の時期に高跳びがあるのはかなり厳しい。 ■ 高学年にネット型の学習がないので、5、6年どちらかでネット型を入れた方がよい。</p> <p>◎ みんな遊びは教師も参加することで外遊びが苦手な子どもも遊べた。◎ 寒い日も外で遊んでいる子が多い。</p> <p>■ まだまだ日々の休み時間の外遊び奨励についての担任を中心とした不断の努力が必要。◎ 何人かの先生だけではあるが、休み時間や放課後、子どもたちと外遊びをしているのがよい。</p> <p>◎ 学級でのみんな遊びはもちろんのこと、体育委員会の低、中、高での鬼ごっこは他学年との交流もできよかった。◎ みんな遊びが週に三回あり、それがとても効果がありました。</p> <p>★ 外遊びのはたらきかけを「学校全体」で何か取り組めることができればと思います。</p> <p>◎ 男女とも仲がよく(その反面幼さが目立つ行動も多いが)共に活動することが多く見られたと感じた。</p>	2.9 (3.1)	・体育のカリキュラムについては、今年度の反省を生かし、改善していきます。
エ 信頼され魅力ある学校をつくる	～未来に向けた地域協働のために～			
保護者・地域・関係機関とともに学校の防災・防犯体制を強化し、安全安心な学校づくりを行うとともに、子どもにも危険予測能力や危機回避能力を身につけさせる。	<p>①火災や地震・津波を想定した防災訓練を計画的に実施する。</p> <p>②不審者侵入を想定した防犯訓練を実施する。</p> <p>③ケータイ(スマホ)や、ネットとの正しい関わり方を学ぶ講習や講演会を親子で受ける機会を作る。</p> <p>④交通安全協会の指導のもとに、自転車教室を3年生対象に実施する。</p>	<p>◎ 休み時間の避難訓練でいろいろな場合の避難の仕方が指導できた。◎ 休み時間の避難訓練がより実践的でよかった。</p> <p>◎ 地域防災訓練の実施ができた。◎ 地域の防災訓練は様々な立場の人と共に救護の方法など学べてよかった。</p> <p>■ 今年度の1月の避難訓練は雨のために流れて、長時間テレビ放送となり、低学年は難しすぎて大変だった。</p> <p>◎ 社会科や道徳の学習を通して防災について自ら考え、行動することの大切さを学ぶことができた。</p> <p>◎ 不審者対応訓練を続けることで課題が見つかり考える機会となるので続けていきたい。◎ 防犯訓練を実施したことで、教職員の意識が高まったと思う。◎ 夏の防犯訓練は非常に効果があると思う。</p> <p>◎ 自転車訓練や情報講演会などは、雨や寒さを避けてよい時期にきちんとやり続けたい。</p> <p>◎ ケータイを低学年の子も持っている子もいるので、講習など定期的に開くといいと思う。</p> <p>■ ケータイ(スマホ)の利用については家庭での認知度の差も大きく、とても危険な状況であると感じる。大人が気づかないところでの子ども達の世界が多いと感じる。</p> <p>★ ケータイ、ネットの正しい関わり方の講演会があればありがたいかなと思います。</p> <p>◎ 今年から人権講演会と情報モラルを隔年に行っているのので続けていったらいいと思います。</p> <p>■ 低学年でもYou tubeを見ている子や他の人とつながれるようなゲームをしている子も少なくはなく、低学年でも情報モラルについて教えていかないと怖いと感じています。</p>	3.0 (3.1)	・休み時間での避難訓練、不審者対応訓練など継続して取り組みます。 ・今年度、十分にできなかった弾道ミサイル発射に対する危機対応訓練を充実させます。 ・情報モラルの充実に向けて、講演会等で考えていく指導に取り組みます。
積極的に情報を発信して保護者や地域とのつながりを深めるとともに、学校評価を活用してPDCAサイクルに基づいた改善と結果公表を行い、魅力ある学校づくりを行う。	<p>①学校の方針を積極的に打ち出し、寄せられた意見をチェック・分析して改善に役立てる。</p> <p>②参観・懇談、オープンスクール、学校・学年通信、ホームページ等を効果的な情報発信の場ととらえ、積極的に活用する。</p>	<p>■ 学校からの発信は積極的に行っていると思うが、保護者アンケートでは、「あまりできていない」という声も多い。</p> <p>◎ 行事毎にホームページをアップして、多くの人にとってもらう機会が増えた。◎ 前年度より積極的にホームページの更新ができた。</p> <p>◎ ホームページの情報発信が整えられよかった。ホームページのアピールを保護者に知らせることが必要。(ホームページ見てねなど) ◎ 学校ホームページに学年活動をアップロードしているのはよい。</p> <p>■ 学校ホームページを見ている保護者は一部。何でもアップして更新する事は避けるべき。現状程度で良いのでは。</p> <p>■ 寄せられた意見は素直に喜び、よりよくしていけばよいと思うが、考えていかなければいけないマイナスの意見をどうするかをしっかりと考えたい。しかし、何度もアンケートを取り、保護者の学校に対する要望をよく聞いていると思う。 ◎ アンケート結果などが細かくまとめられており、とても分かりやすい。</p> <p>■ 保護者アンケートは記名にするべき。本当に学校や子どものことを考えての意見であれば記名であっても書ける。無記名である場合、意見なのか苦情なのか本当に困っているのか判断しかねる。</p> <p>◎ 学校通信でしっかり発信して下さっていると思います。</p> <p>◎ オープンスクールにはたくさん来て下さっているの、普段の様子を見ていただけてよい。</p>	3.1 (2.8)	・さらにホームページを充実させるとともに、保護者が閲覧することへの啓発に努めます。 ・地域、保護者への開かれた学校づくりを進めます。
教職員一人一人がプロの教師としての力量を高めながら、共に高まり合う研修も行う「学び続ける組織」であることにより、保護者や地域から信頼され共に伸びる学校をめざす。	<p>①急激な世代交代に備え、優れた講師を招聘したり、ベテラン教職員が指導技術を伝承したりするなど、若手教職員の育成を中心に学校全体で学び合う機会をつくる。</p> <p>②特別支援教育等、課題に応じた研修会をもつ。</p> <p>③若手教職員による学年を越えた勉強会や、さらに他校の日常的な授業を見る機会など、研修の幅を広げる。</p>	<p>◎ 校内研究の事後研究会では、講師の先生の話が大変勉強になるので、とても勉強になる。</p> <p>◎ 一人一授業は意識改善になった。 ◎ 一人一授業で他学年、クラスの授業を見ることができ、勉強になった。</p> <p>■ 研修に出やすいようにするために自習時の計画的な教員配備が必要。</p> <p>◎ 研究をはじめ、様々な場で学ぶ機会をもらった。◎ 夏の研修はとても有意義で授業に活かせるものであった。</p> <p>■ 若手の教職員で集まり、学び合う機会を設けたい。 ◎ ベテランの先生方がたくさん教えて下さったり、聞きやすかったりするのでとても助かっています。</p> <p>■ 特別支援学級の職員は、児童数に対してどうしても足りない現状があり、本当にその子にとっての「特別な支援」がなされているのかと感じることがある。職員、ボランティアの方の人数を増やすのは難しいのでしょうか。</p>	2.8 (3.0)	・研修、研究を中心に教師としての力量を高める取り組みに励みます。 ・若手とベテランの教員の世代間交流をさらに進めます。